

事業構造改革の 手法別比較ハンドブック



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

事業構造改革の手法別比較ハンドブック

事業構造改革：3つの手法別アプローチ比較

事業構造改革は、改善の「対象」と「目的」によって3つの手法に使い分けられます。自社が今、どこを再構築すべきかを比較検討するための全体像です。

比較項目	事業構造改革（事業）	事業構造改革（業務）	事業構造改革（財務）
改革の対象	事業ポートフォリオ	現場の業務プロセス	キャッシュフロー
主な施策	選択と集中・事業整理	業務の見直し・無駄な作業の削減	資金繰りの改善
改善の方向	「何をするか」の変更	「どう動くか」の効率化	「お金をどう回すか」
期待する成果	中長期的な競争力強化	業務の効率化・経営効率の向上	財務基盤の安定化

事業構造改革の手法別比較ハンドブック

事業構造改革の手法別：メリットとデメリット・リスクの比較

各手法がもたらすプラスの効果と、生じうるマイナスの影響を対比させます。

メリット（期待できる効果）の比較

- ・事業面：不採算事業の人件費等を削減し、主力事業への「選択と集中」で競争力を高める。
- ・業務面：事業をまたぐ類似業務の統合や不要な作業の廃止により、経営効率を向上させる。
- ・財務面：キャッシュフローを改善し、倒産リスクの回避や財務基盤の安定化を図る。

デメリット（現状への負の影響）の比較

- ・人的側面：業務変更や人員整理により、社員のモチベーションが低下する。
- ・業績側面：体制変更には時間要するため、一時的に業績が低下する場合がある。

事業構造改革の手法別比較ハンドブック

リスク（将来への潜在的脅威）の比較

- ・戦略的損失：将来の「金のなる木」となる事業を誤って整理し、成長エンジンを失う。
- ・確実性の欠如：構造改革を断行しても、必ずしも将来の業績向上が保証されるわけではない。

手法選択の判断基準：PPM分析による比較ガイド

どの事業にどの手法を適用すべきか、市場成長率とシェアに基づいた判断基準を比較します。

事業ステータス別の手法選択

- ・「負け犬」事業（低成長・低シェア）
⇒ 事業構造改革（事業）を優先。撤退や整理によるリソース回収を検討。
- ・「金のなる木」事業（低成長・高シェア）
⇒ 事業構造改革（業務・財務）を適用。効率化によりキャッシュを最大化する。
- ・「問題児」事業（高成長・低シェア）
⇒ 事業構造改革（事業）的な視点が必要。将来を見据え、継続か撤退かを中長期的に判断。

事業構造改革の手法別比較ハンドブック

成功を左右する実行ポイントの比較

- ・**戦略の有無**：単なる削減ではなく「再投資先」が明確か。
- ・**視点の長さ**：短期的な利益だけでなく、中長期的な企業価値向上に寄与するか。
- ・**客観性の確保**：社内事情に縛られず、外部専門家等の視点を取り入れて実行できるか。